

受賞者：八千代町コミュニティ推進協議会（茨城県八千代町）

内閣総理大臣賞
受賞年：昭和62年



むらづくりの経緯

○集落段階、旧村単位、町全域の段階的な生活圏に着目し、自主的なむらづくり活動を行うため、昭和59年に本協議会を組織。町内を5つの地区に分け、それぞれの地区ごとに生活環境整備部会、産業振興部会、教育文化部会、健康づくり部会を設置し、話し合い活動、実践活動を展開。

受賞当時

生産活動の特色

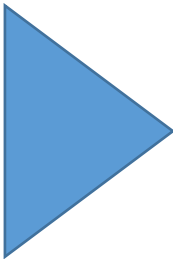
- 都市近郊の混住化の進展した地域において以下の取り組みを行うことで生産性の高い都市近郊農業を実現。
 - ・自主的な集団転作の推進
 - ・農業機械施設の共同利用システムの確立

地域づくりの特色

- 地域に生きる喜びをむらづくりの基本として、以下の取り組みを実施。
 - ・「三世代の集い」の開催
 - ・全住民参加によるクリーン作戦
 - ・「生け垣協定」によるブロック塀の廃止
 - ・女性グループによる食生活改善による健康管理の活動

～受賞直後の効果～

・内閣総理大臣賞を契機にコミュニティ推進協議会の活動が一層充実したものとなった。



現在（令和5年フォローアップ時）

評価ポイントの取組状況

○自主的な集団転作の推進

転作に対する取組意識が高く、需要に応じた生産目標を定めて推進している。

○農業機械施設の共同利用システムの確立

当時購入した機械や施設は経年劣化等により共同利用の運用が困難になったが、大規模農家の増加等により、個人農家での機械購入・管理へ移行している。

○「三世代の集い」の開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により大規模なイベントの実施は少なくなっているが、感染対策をとりながら、毎年複数の行政区が三世代交流事業を実施している。

○全住民参加によるクリーン作戦

現在も全地区で実施している。

○「生け垣協定」によるブロック塀の廃止

当時は、緑化運動として呼びかけたが費用面の問題等もあり、あまり普及しなかった。

○女性グループによる食生活改善による健康管理の活動

現在も子供から高齢者まで幅広い年齢層を対象にした事業を積極的に実施している。令和元年度には団体設立40周年を迎え、今後も地域住民の食生活の改善に向けた取り組みが期待される。その一方で会員の高齢化や減少が懸念されている。



しめ縄づくり講習会



鬼怒川堤防見学会



マイタイムライン講習会

《活動事例》

- 生活環境整備部会・・・クリーン作戦、水道事業学習会
不法投棄禁止看板設置
- 産業振興部会・・・しめ縄作り講習会、遊休農地防止チラシ配付
- 教育文化部会・・・あいさつ標語コンクール、鬼怒川堤防見学会
- 健康づくり部会・・・歩く会、地域文化学習会

今後の展開

○新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、事業の実施が難しい状況が続いていたが、現在は感染対策をとりながら内容を工夫した取り組みを行っており、今後も感染対策と事業の両立、地区ごと、部会ごとの活動内容の充実を図る。